

|       |   |     |                    |
|-------|---|-----|--------------------|
| 受付番号  | 3                                       |     |                    |
| 許可番号  | 大歯医倫 第 111098 号                         |     |                    |
| 研究課題名 | 歯科衛生士が行う口腔健康管理と介護老人保健施設入所者の心身状況との関連性の検証 |     |                    |
| 研究責任者 | 糸田 昌隆                                   | 申請者 | 近田 紀子              |
| 研究終了日 | 2021 年 3 月 31 日                         |     |                    |
| 所 属   | 医療保健学部<br>口腔保健学科                        | 所 属 | 医療保健学研究科<br>口腔科学専攻 |
| 職 名   | 教授                                      | 職 名 | 大学院 2 年生           |

#### 申請の概要

介護老人保健施設は要介護高齢者の自立を支援し在宅復帰を目指して、医療と介護、看護やリハビリテーション等を担う施設である。また、平成30年4月より改正された「口腔衛生管理加算」等では、介護現場における日常業務に加え、歯科衛生士との連携の仕組みがより深くなり、それにより口腔の問題点を抽出し、口腔状況を説明し、且つ歯科衛生士が実施指導も行い、職員にも具体的に指導を行うことが可能となった。それにより歯科治療の必要性を把握し治療に結びつく機会も増加すると考えられている。しかしその歯科的介入による入所者の心身状況への影響に関しての報告は少なく、また歯科衛生士の関わり方に関しての効果は明確にされていない。

本研究では、4～5ヶ所の介護老人保健施設を選定し、施設の概要（入所の人数・介護度・職員人数と職種）や口腔衛生管理加算及び口腔衛生維持管理体制加算の算定の有無、歯科衛生士介入回数、歯科治療実施率、入所退所、および在宅復帰率をアンケートにより調査し比較検討を行う。また訪問面接調査として、入所者の健康状態にもたらす心身状況の変

---

化があれば感想を聞き取る。口腔関連情報として口腔アセスメント（OHAT）を用い口唇・舌・歯肉粘膜・唾液・残存歯・義歯・口腔衛生状態・歯痛の8項目と改定 BDR 指標で口腔衛生の自立度を判定する。これらの調査結果より、介護老人保健施設の取り組み方により入所者の心身状況にどのような影響があるのかを分析することで、介護現場での歯科介入の必要性が実証されるものと期待される。